

息のあった演奏を披露する参加者
＝上山市・宮生地区公民館

重ねる音色 楽しさ実感

上ロースバンドコンサート

中3から60代、4曲

金管楽器と打楽器で構成する英国式上ロースバンドを体験するワークショップの参加者によるコンサートが17日、上山市の宮生地区公民館で開かれ、中学生を含むメンバーが息のあった演奏を繰り広げた。

山形サポート

子どもたちに音楽器に親しんでもらう機会をつくること昨年発足した上ロースバンド（上山少年少女上ロースバンド）と16歳以上が対象のパステル上ロースバンドが主催した。中学生3年生から60代の延べ16人が5回のワークショップに参加。アイルランド民謡「夏の名残のバラ」、スッペの序曲「詩人と農夫」など4曲を仕上げてきた。



メンバーはやや緊張した面持ちで聴衆の待つ会場へ。バンドを主宰する相田淳一さん（同市）の指揮に合わせ、金管楽器の音色を重ね奏行きのあるパーマシーを響かせた。ホルネットを担当した武田豊樹（まむろ）さん（14）＝宮中3年＝は「いろんな人と楽器の音を合わせる楽しさを知った」と笑顔を見せ、相田さんは「上ロースバンドに市民の関心が集まりつつある」と手応えを感じていた。

上ロースバンドは、クラウディアン・エンゲル「山形サポ

ート」を通じ、第7号プロジェクト「上山市の子どもたちが演奏するための楽器購入」として資金を募っている。目標金額は50万円で募集期限は7月27日。支援額に応じ定期演奏会の招待券や演奏ビデオ、レターなどの返礼品を贈る。問い合わせは山形新聞デジタル推進本部023（622）5265。

楽器購入費募る